

報道関係者各位

2024年1月25日

株式会社イード

(東証グロース：コード6038)

**イード、自動車総合情報プラットフォーム「レスポンス」のビジネス会員が2万人を突破  
～EV、カーボンニュートラル燃料など次世代自動車に関するビジネスへのニーズに対応**

株式会社イード（本社：東京都中野区、代表取締役：宮川 洋）が運営する自動車総合情報プラットフォーム「レスポンス（<https://response.jp/>）」は、ビジネス会員の登録数が2万人を突破しました。



■100年に1度の大変革期を乗り越えるために

自動車業界は、2021年の全世界4輪車販売台数8,268万台、2020年の保有台数15億3,526万台（5.1人に1台）という巨大市場（※）です。同時に世界のカーボンニュートラルやデジタル化の急速な動きに対応したEVシフトや自動運転（AD）、高度運転支援システム（ADAS）の導入、さらに交通手段が社会変革に繋がるMaaS（Mobility as a Service）など変化が急速に進んでおり、自動車市場は100年に1度の大変革期にあるとされています。

（※）JAMA（日本自動車工業会）資料より

しかし、CASE=Connected（ネットワーク接続）、Autonomous（自動運転）、Shared（シェアリング）、Electric（電動化）やMaaSといったバズワードばかりが先行し、実際に自動車産業の中で何が行われ、何が変わって行くのかをアップデートに把握することは容易ではありません。

最も古い20年以上の歴史を持つ自動車専門Webメディアであるレスポンスは、この時代の変化に対応すべく2022年6月にリニューアルを行い、ビジネス会員限定のコンテンツ提供を開始しました。

誰でも無料でビジネス会員になることができ、EVや電池産業、半導体、SDV、カーボンニュートラル燃料など新しい自動車産業の内側を取材し解説するコンテンツを閲覧できます。

このビジネス会員の総計が2024年1月に2万人を突破しました。

## ■ビジネス会員のための5大コンテンツ

レスポンスでは、自動車産業の最新情報に興味関心を持つ読者のために各種のコンテンツをご用意しています。

### 1. ビジネス会員限定記事

CASE、MaaSの最新情報や「自動車業界株価ウォッチ」「人事情報」なども。自動車業界の最新報道に加え、展示会レポート、開発者インタビュー、業界を深掘りする独自視点の連載や解説記事も配信。

### 2. ビジネスセミナー

大人気セミナー「中西孝樹の自動車・モビリティ産業インサイト」はSeason2のvol.7で、ソニー・ホンダモビリティの水野代表取締役会長がゲスト講師に。新たなシリーズ企画として「【池田直渡の着眼大局セミナー】第2回～インドにおけるスズキの成長戦略～」「どうなるトヨタの今後」「2030年代に向けた自動車産業の次世代ビジネスモデル」「「テスラの事業戦略」を大研究」など自動車業界のトピックス、キーマンを招いたオンラインセミナーを毎月4回以上開催。セミナー開催後はアーカイブでも視聴できます。

**Season 2** 中西孝樹の自動車・モビリティ産業インサイトvol.7 ソニー・ホンダモビリティ

仮:ソニー・ホンダモビリティが考える  
**モビリティにおける  
新たな価値**

オンライン会場  
2024.1.23 火  
10:15 ~ 11:45

モデレーター  
リサーチ・アンド・コンサルティング株式会社  
代表アナリスト  
中西孝樹氏

ゲスト講師  
ソニー・ホンダモビリティ株式会社  
代表取締役 会長兼CEO  
水野泰秀氏

池田直渡の着眼大局セミナー

インドにおける  
**スズキの成長戦略**

オンライン会場  
2024.1.30 火  
10:30 ~ 12:00

モデレーター  
自動車ジャーナリスト  
/ 自動車経済評論家  
池田直渡氏

ゲスト講師  
スズキ株式会社 副社長  
営業統括 兼 インド事業本部長  
鮎川堅一氏

### 3. 調査レポート

「中国のNEV市場動向」「BYDのNEV戦略～中国が創出した世界一のEVメーカー～」 「中国・新興EVメーカー調査」「充電インフラの市場動向」「SDVの市場動向」など自動車産業の各分野を整理・分析した調査レポートを提供。



エグゼクティブサマリー (1/3)

iid

■ 各メーカー特徴	
日本	<p><b>ideta</b> ideta EV</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2021年に中国EV市場の成長を背景に創業した中国新興EVメーカー</li> <li>最新EVシリーズはPIVUL D1の開発が軌道、車両ノード、自動運転開発、Max5開発なども進める</li> </ul>
	<p><b>Phoenix Motors</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2002年に創業、2010年にAI Youzuの子会社となった、中国新興EVを手掛ける米国の新興EVメーカー</li> <li>フォーミュラEレース、EVバス、EVトラックを開発</li> </ul>
	<p><b>XOS</b> XOS</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2016年に創業、2021年にPACUの1子会社として、米国のEV市場をターゲットにEVメーカー</li> <li>Ford XPSの製造を定期的に受発、フォーミュラEトラック、EVバスを開発中</li> </ul>
米国	<p><b>Amimoto</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2007年に創業、米国初のEV向けEVメーカー</li> <li>デジタル最先端のEVの開発・製造・販売を行う、2023年1月より資金不足に陥り倒産している</li> </ul>
	<p><b>WORKHORSE</b> Workhorse Group</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2007年に米国オハイオ州でCardone MotorsのCEO Steve Barroが創業した新興EVメーカー</li> <li>371マイルの航続距離、60kWhの電池容量のEVトラック、トラックプラットフォームを開発・製造する</li> </ul>
	<p><b>CENNTR0</b> Genro Electric Group</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>数年前創業した新興EVメーカーで、2021年に米国NASDAQに上場、過去6年間でEV</li> <li>2022年度は販売台数が前年を下回っており、事業・製造開発の再開が求められている</li> </ul>

出所：各社公開資料

新興EVメーカー調査 | IID, Inc.

エグゼクティブサマリー (2/3)

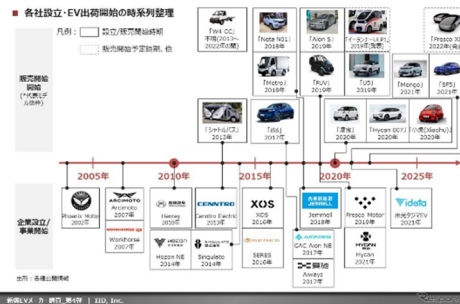
iid

■ 各メーカー特徴	
欧州	<p><b>Renault Motors</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2019年に1月10日に配当株3名が共同で設立した、新興EVメーカー</li> <li>デザインが強く、燃費効率が高いなどの長所を兼ね備えたEV開発に注力し、販売網が手厚い特徴</li> </ul>
	<p><b>零跑汽車 (Leapmotor)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2014年に北京で設立された新興EVメーカー</li> <li>中国市場での成長を背景に、2020年に米国市場に進出し、2023年9月にEVのEV化を進める</li> </ul>
	<p><b>威馬汽車 (Weyang)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>元は仏国の新興EVメーカーでSACI VWAの子会社として2017年に1番で創業したEV新興メーカー</li> <li>早くから欧州市場に進出し、VWC CO2ルールで競争するなど、中国市場での成長も期待される</li> </ul>
中国	<p><b>广汽埃安 (GAC Aion)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2017年にEV専売ブランドとしてGACグループの下に設立された新興EVブランド</li> <li>「Aion」ブランドのEVの開発・製造・販売を行う、中国2023年EV市場のEV市場をリードする</li> </ul>
	<p><b>小鹏汽車 (XPeng)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中国の小型EVメーカー「小鹏G3」の製造・販売を行うEV新興メーカー</li> <li>子会社が中国市場でEVの開発・製造・販売を行う、自動運転開発センターの開発、Huawei提携など新しい技術の開発も行う</li> </ul>
	<p><b>蔚来汽车 (NIO)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>FCU2.0の開発会社「Soul Hyper」(蔚来)が設立したEV新興メーカー</li> <li>「蔚来」ブランドのEVの開発・製造・販売を行う、蔚来はAutoXのEV市場をリードする</li> </ul>

出所：各社公開資料

エグゼクティブサマリー (3/3)

iid



出所：各社公開資料

新興EVメーカー調査 | IID, Inc.

### 4. EV リスキリング講座

EVの基礎からビジネスを30分で一挙に習得できる「EV リスキリング講座」は30講座を提供。特徴は、

- ・基礎からビジネスまで多くのEV関連分野を網羅
- ・その分野の一流の講師陣による約30分で完結する動画講座
- ・初級編は新入社員や新入社員候補者、EVが初めての人向けの内容
- ・中級編はマネジメント層に向けた内容

### 5. メールマガジン

毎週、オススのビジネス記事をピックアップして紹介するほか、最新のCASE/MaaSトレンドに沿った企業やキーワードの解説も提供。

#### ■ ビジネス会員4つのプラン

##### 1. プレミアムプラン (月額税込9,000円)

- ・ビジネス会員限定記事を無制限に閲覧できます。
- ・ビジネスセミナーを視聴できます。
- ・ビジネスセミナーの見逃しアーカイブを視聴できます。
- ・調査レポートを閲覧できます。
- ・EV リスキリング講座を視聴できます。

- ・自動車ビジネス関連の有益な情報をメールマガジンでお届けします。
- ※複数アカウントご契約いただくとお得な法人契約プランもございます。

## 2. スタンダードプラン（初月無料、翌月から月額税込 980 円）

- ・ビジネス会員限定記事が無制限に閲覧できます。
- ・自動車ビジネス関連の有益な情報をメールマガジンでお届けします。

※ビジネスセミナー無料招待キャンペーンに応募いただいた際の当選確率が無料会員の 25 倍です。

## 3. 無料会員

- ・ビジネス会員限定記事を月 10 本まで閲覧できます。
- ・自動車ビジネス関連の有益な情報をメールマガジンでお届けします。

## 4. 学生プレミアム会員（無料）

※学生限定の無料プランです。

- ・ビジネス会員限定記事が無制限に閲覧できます。
- ・ビジネスセミナーを視聴できます。
- ・ビジネスセミナーの見逃しアーカイブを視聴できます。
- ・調査レポートを閲覧できます。
- ・自動車ビジネス関連の有益な情報をメールマガジンでお届けします。

詳しくはこちら

<https://response.jp/pages/info/members.html>

### ■レスポンスについて

20 年以上に渡って“いま”のクルマを商品・ビジネス・社会の 3 つの視点で立体的に捉え、さらに IT・デザイン・環境の面からも付加価値創造の手助けをすることをモットーとして、日々情報発信を続ける日本最大級の自動車総合情報プラットフォームです。国内のみならず、自動車関連のグローバルな情報を、業界の最前線からいち早く読者にお届けしています。

URL : <https://response.jp/>

### ■本リリースに関するお問合せ :

メディア事業本部 オートモーティブ事業部 担当 : 山本

URL : [https://www.iid.co.jp/contact/media\\_contact.html?recipient=response](https://www.iid.co.jp/contact/media_contact.html?recipient=response)

広報担当

URL : [https://www.iid.co.jp/contact/pr\\_contact.html](https://www.iid.co.jp/contact/pr_contact.html)

株式会社イード 〒164-0012 東京都中野区本町 1-32-2 ハーモニータワー17 階

<https://www.iid.co.jp/>